

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

|               |  |
|---------------|--|
| 事業所番号         | 4070800885                                   |
| 法人名           | 医療法人 福満会                                     |
| 事業所名          | グループホーム 八重桜                                  |
| 所在地<br>(電話番号) | 福岡県福岡市東区西戸崎5丁目8番54号<br>(電話) 092 - 603 - 1515 |

|       |                        |       |             |
|-------|------------------------|-------|-------------|
| 評価機関名 | 株式会社アーバン・マトリックス        |       |             |
| 所在地   | 北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階 |       |             |
| 訪問調査日 | 平成20年11月18日            | 評価確定日 | 平成20年12月23日 |

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |           |        |                       |
|-------|-----------|--------|-----------------------|
| 開設年月日 | 平成14年2月2日 |        |                       |
| ユニット数 | 1 ユニット    | 利用定員数計 | 9 人                   |
| 職員数   | 10 人      | 常勤     | 8人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.4人 |

### (2) 建物概要

|      |                     |
|------|---------------------|
| 建物構造 | 木造平屋造り<br>1階建ての1階部分 |
|------|---------------------|

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                  |                |                 |   |
|---------------------|------------------|----------------|-----------------|---|
| 家賃(平均月額)            | 65,000 ~ 69,000円 | その他の経費(月額)     | (水道光熱費) 24,000円 |   |
| 敷金                  | 有(500,000円)      |                |                 |   |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 無                | 有りの場合<br>償却の有無 | 無               |   |
| 食材料費                | 朝食               | 円              | 昼食              | 円 |
|                     | 夕食               | 円              | おやつ             | 円 |
| または1日当たり 1,200円     |                  |                |                 |   |

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

|       |          |      |     |    |     |
|-------|----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 9名       | 男性   | 4名  | 女性 | 5名  |
| 要介護1  | 1名       | 要介護2 |     | 4名 |     |
| 要介護3  | 1名       | 要介護4 |     | 2名 |     |
| 要介護5  | 1名       | 要支援2 |     | 0名 |     |
| 年齢    | 平均 86.9歳 | 最低   | 78歳 | 最高 | 95歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |                  |
|---------|------------------|
| 協力医療機関名 | ふくみつ病院 / やまだ歯科医院 |
|---------|------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

八重桜は、老舗和風旅館を思わせるたずまいの木造平屋造りの1ユニットである。計画的な庭造りにより、緑に囲まれ、年間を通して、四季折々の樹木や花を楽しむことが出来る。敷地内には、母体法人が運営する老健施設があり、行事やクラブ活動等だけでなく、日常的に行き来の出来る馴染みの関係が築かれている。医療や災害等の緊急時の連携体制もあり、防災訓練も共同で実施されている。室内は、間接照明の程よい明るさを保ち、民芸調の調度品や使にまれた辞書や地球儀・黒電話等が、さりげなく配され、懐かしく気持ちよく、く空間づくりがなされている。(居室の輪口や、トイレのタイルにも懐かしい時代の記憶が甦る。)居室についても、全てに洗面設備があり、中には、流し台やトイレを完備した部屋もある。職員は、「入居者主体、本人本位」の視点を大切に、黒子に徹し、一人ひとりの思いや意向を尊重しながら、柔軟な対応を行っている。入居者一人ひとりの人物像がより明確となるように努めたアセスメントツールを始め、一人の入居者に複数の職員の眼が行き届く仕組みを作り上げた観察記録等を通して、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に、日々努めている。いずれのツールも、より効果的で、精度の高い様式・方法を追求し、改良を重ねられた独自の物で、そこから、職員の意識の高さと、誇りを感じずにはいられない。また、入居者との哀しい別れを体験する中で、「今だからこそ出来ることを大切に」という意識を、全職員が共有するに至り、遠方への里帰りや、昔馴染みの知人を訪ねる等、入居者一人ひとりの希望の可能な限りの実現に努めている。八重桜を訪れ、細部に目を凝らし、職員の声に耳を澄ますと、そこには、職員一人ひとりの仕事に対する熱い思いがこめられていることに気付かされる。八重桜は、日々「入居者主体」を追求し続け、確かな歩みを重ねているグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

|      |   |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  |
|      | 前回の指摘事項について、職員間で話し合いを行い、改善出来るところから取り組んでいる。記録物の様式について改善を行っている。   |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)   |
|      | 自己評価は、主体的に取り組み、職員間でミーティングを行い作成している。その内容は厳しく自己評価を行い、「取り組んでいきたい内容」への記述が多く意欲的なものであった。また評価項目についても、職員教育・新任者への教育・説明に格好の題材と捉え、職員間で再確認と周知に努めている。また、本調査の職員ヒアリングを研修の機会と位置づけ、全職員への実施を求める等、積極的に外部評価を活かしている。             |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)  |
|      | 運営推進会議の議事録から、自治会長・副自治会長・地域包括支援センター・老健施設副施設長・入居者が参加し、スライドや写真資料を活用しながら、運営状況・活動内容等について報告・説明していることが確認出来た。但し、メンバーの多忙により、定期的な開催には苦慮している様子が見える。その代わりに、地域行事の参加の機会を活かし、その機会に情報交換や活動報告等を行っている。                        |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)  |
|      | 職員は、「家族は、意見を出し難いものである」ということを認識し、玄関に提案箱を設置するだけでなく、請求書送付時にアンケートを同封したり、外部相談窓口の紹介や3ヶ月に1度、外食会を実施する等、多様な手段で家族等の意見収集に努めている。出された意見についても、会議やミーティングで検討し、迅速な対応に努めている。また面会や計画書説明時にも、意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、意見を反映できるように努めている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  |
| 重点項目 | 地域・小学校行事に参加し保育園との交流も行っている。近隣の清掃活動等を通して、地域の人々とも交流している。また隣接の老健施設とは、日常的に行き来があり、近所づきあいがなされている。食材等、日常的な買物は、地域の商店(八百屋・魚屋)を利用し、馴染みの関係が出来ている。店の方も、気軽にホームへ立ち寄り、入居者とも顔見知りになっている。                                      |

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|-----------------------|----|--|---|-----|--|
| <b>. 理念に基づく運営</b>     |    |  |   |     |  |
| 1. 理念と共有              |    |  |   |     |  |
| 1                     | 1  | 地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 「共生」を主旨とする事業所独自の理念と運営方針をつくりあげている。文言として、「地域密着型サービス」の主旨の明示はないものの、「ともに生きる」という視点から地域も含めた内容であることは理解できる。地域密着型サービスとしての地域の中で暮らし続ける支援も文言として検討してほしい。  |     | 自己評価で「改めて現在の理念の見直しや再確認する機会を持ちたい」との意向を示していることから、その実現を期待したい。   |
| 2                     | 2  | 理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 理念を事業所内に掲示し、その周知・共有に努めている。また理念の実現に向け、年間目標を立てるなど計画的・意識的に取り組んでいる。   |     |  |
| 2. 地域との支えあい           |    |  |   |     |  |
| 3                     | 5  | 地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 地域・小学校行事に参加し、保育園との交流も行っている。近隣の清掃活動等を通して、地域の人々と交流している。また隣接の老健施設とは、日常的に行き来があり、近所づきあいがなされている。食材等、日常的な買物は、地域の商店(八百屋・魚屋)を利用し、馴染みの関係が出来ている。店の方も、気軽にホームへ立ち寄り、入居者とも顔見知りになっている。  |     |  |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |  |   |     |  |
| 4                     | 7  | 評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 評価の意義を理解し、主体的に取り組んでいる。自己評価は、職員間でミーティングを行い作成している。その内容は、厳しい(謙虚な)自己評価と、「取り組んでいきたい内容」への記述が多く意欲的なものであった。また評価項目についても、職員教育・新任者への教育に説明の格好の題材と捉え、職員間で再確認と周知に努めている。また、本調査の職員ヒアリングを研修の機会と位置づけ、全職員への実施を求めている等、積極的に外部評価を活かしている。前回の指摘事項についても、職員間で話し合いを行い、改善出来るところから取り組んでいる。結果についても家族に伝えている。 |     |  |
| 5                     | 8  | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の議事録から、自治会長・副自治会長・地域包括支援センター・老健施設副施設長・入居者が参加し、スライドや写真資料を活用しながら、運営状況・活動内容等について、報告・説明していることが確認出来た。但し、メンバーの多忙により、定期的開催には苦慮している様子がうかがえる。その代わりに、地域行事の参加の機会を活かし、情報交換や活動報告等を行っている。   |     | 定期的な開催を基本に参加できない場合は、欠席届けを提出していただいたり、会議の議事録を送付するなど、参加できない場合のサポート策を考え、次回の運営推進会議の参加につなげていくなど工夫が求められる。 |

| 外部              | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|-----|----------------------------------|
| 6               | 9  | 市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる   | 市主催の研修会の実習生の受け入れや担当者の訪問など相互に行き来する機会を持ち、情報交換などを行い連携に努めている。   |     |                                  |
| 7               | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。                                  | 外部研修や勉強会を通して、制度の理解と周知に努めている。併せて家族にも情報提供を行っている。  |     |                                  |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |   |   |     |                                  |
| 8               | 14 | 家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている  | 毎月、担当職員が作成する「八重桜だより」を、家族向けに郵送している。また面会時に、報告するとともに、メールや電話等、家族の希望や事情に応じた形態で実施している。金銭管理については、管理している分が少額になった時点で連絡している。家族のアンケートより、メールを含め、何かあった場合は、早急に連絡があり大きな安心があるとのことであった。                                      |     |                                  |
| 9               | 15 | 運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている  | 職員は、「家族は、意見を出し難いものである」ということを認識し、玄関に提案箱を設置するだけでなく、請求書送付時にアンケートを同封したり、外部相談窓口の紹介や3ヶ月に1度、外食会を実施する等、多様な手段で家族等の意見収集に努めている。出された意見についても、会議やミーティングで検討し、迅速な対応に努めている。また面会や計画書説明時にも、意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、意見を反映できるように努めている。 |     |                                  |
| 10              | 18 | 職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている                                 | ここ数年、異動はなく落ち着いている。退職の申し出について、職員には、入居者や家族の負担を考慮し、早め(1年前)の申し出を依頼している。止むを得ない離職についても、事業所側で改善出来ることがないか等、十分に話し合う機会を持つ等、入居者や家族へのダメージを最小限に抑える努力を行っている。退職後の職員もホームを訪れたり、入居者や家族との交流も継続されている。                           |     |                                  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |   |   |     |                                  |
| 11              | 19 | 人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。 | 採用については、同性介助の必要性から、男女のバランスは考慮するが、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。外部研修の参加や勉強会の実施等、スキルアップの機会確保に努めている。職員へのヒアリングから、研修へは参加しやすい雰囲気であることが確認出来た。また職員のストレスケアについても、研修会に参加したり、懇親会を行なう等、働きやすい環境づくりに積極的に取り組んでいる。               |     |                                  |

| 外部                        | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| 12                        | 20 | 人権教育・啓発活動  | 外部研修に参加すると共に同性介助の実施や職員で構成する委員会等で身体拘束廃止の勉強会を実施する等、日常業務とのかかわりの中で、人権に関する意識を高めている。  |     |                                   |
|                           |    | 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。                              |   |     |                                   |
| 13                        | 21 | 職員を育てる取り組み   | 学習委員会が個々の状態に応じ、計画的に研修を実施している。研修の報告書についても、その様式に工夫があり、研修後、職員間で周知業務に反映できるように努めている。管理者は、入職時から、「自分づくり」と「チームワーク」の重要性を徹底して伝えており、本調査を通して随所にその浸透を感じる事が出来た。 |     |                                   |
|                           |    | 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている             |   |     |                                   |
| 14                        | 22 | 同業者との交流を通じた向上  | 県高齢者グループホーム協議会に加入し、定期的に勉強会や交流の機会をもっている。外部研修の機会を活かし、研修先での情報交換や見学等を行いネットワークづくりに努めている。入居者が、以前利用していた施設との交流も継続している。                                    |     |                                   |
|                           |    | 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている      |   |     |                                   |
| <b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>  |    |  |   |     |                                   |
| 2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 |    |  |   |     |                                   |
| 15                        | 28 | 馴染みながらのサービス利用  | 入居前に、職員が自宅や施設等を訪問したり、本人にホームに見学や遊びに来ていただき、コミュニケーションを図りながら、不安の軽減と徐々に馴染めるように努めている。段階的な利用や使い慣れた家具等を持ち込んでいただき、馴染みやしやすい雰囲気づくりに努めている。                    |     |                                   |
|                           |    | 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している |   |     |                                   |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 |    |  |   |     |                                   |
| 16                        | 29 | 本人と共に過ごし支えあう関係   | 理念・運営方針においても、「共に過ごし支えあう」ことが謳われており、職員は、日々その実現に努めている。入居者と職員の会話の様子から、日頃より対等な関係が築かれていることがうかがえる。入居者の得意分野については、相談やアドバイスを受けながら一緒に取り組んでいる。                |     |                                   |
|                           |    | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       |   |     |                                   |

| 外部                                | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| <b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |  |  |     |                                   |
| 1. 一人ひとりの把握                       |    |  |  |     |                                   |
| 17                                | 35 | 思いや意向の把握   | 家族記載の「ライフヒストリー表」(独自)と、アセスメントツール(「独自様式+センター方式」)を活用して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。  |     |                                   |
|                                   |    | 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                                  |  |     |                                   |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し    |    |  |  |     |                                   |
| 18                                | 38 | チームでつくる利用者本位の介護計画  | 家族記載の「ライフヒストリー表」(独自様式)や、アセスメントツール(「独自様式+センター方式」)、審査会資料等を活用し、また必要な関係者からの意見を参考にしながら、細やかな観察をもとに、職員間でアイデアを出しながら、入居者本位の介護計画作成に努めている。ケアカンファレンスも月に1回実施している。                                 |     |                                   |
|                                   |    | 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        |  |     |                                   |
| 19                                | 39 | 現状に即した介護計画の見直し   | 定期的及び必要に応じてカンファレンスを実施し、入居者の状態に応じた介護計画の見直しを行っている。カンファレンス記録から、職員が意見を出し合い、多面的に検討している経過が確認出来た。   |     |                                   |
|                                   |    | 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している |  |     |                                   |
| 20                                | 41 | 事業所の多機能性を活かした支援  | 医療法人福満会が運営母体であるため、医療的な面での24時間の連携体制があり、健康・疾病管理に大きな安心がある。また、敷地内に同法人が運営する介護老人保健施設があり、日常的にクラブ活動やリハビリ・行事等、合同の企画を実施し、入居者の楽しみごとを多く提供でき、専門性が高い職員のマンパワーなど、法人としてのスケールメリットを活かしたケアやサービス提供を行っている。 |     |                                   |
|                                   |    | 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                                    |  |     |                                   |
| 21                                | 45 | かかりつけ医の受診支援  | 本人及び家族の希望を尊重し、かかりつけ医に受診出来るように支援している。受診時には、職員が同行している。また法人母体の病院や隣接の老健施設と24時間の連携体制が築かれている。  |     |                                   |
|                                   |    | 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                   |  |     |                                   |

| 外部                            | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| 22                            | 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有   | 本人・家族の意向を尊重すると共に、本人・家族の気持ちは、入居当初と病気の進行・身体状態の変化によって、変化することをふまえながら、その都度、必要に応じて話し合いを行っている。今後は、入居者・家族・医師・医療機関等、関係者や職員との話し合いにより、看取りの方針の作成を期待したい。   |     |                                   |
|                               |    | 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している |   |     |                                   |
| 1. その人らしい暮らしの支援               |    |  |   |     |                                   |
| (1) 一人ひとりの尊重                  |    |  |   |     |                                   |
| 23                            | 52 | プライバシーの確保の徹底   | 個人情報の取り扱いに留意しながら、言葉かけや同性介助の実施等、対応全般について、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。入居者の呼び方についても、最初に尋ね、入居者の意向にそった呼び方を行っている。   |     |                                   |
|                               |    | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                      |   |     |                                   |
| 24                            | 54 | 日々のその人らしい暮らし   | 一人ひとりの意向を必ず確認し、また体調に配慮しながら、本人のペースで自由に生活できるように支援している。また、かかりつけ医に提案し、話した合った上で入居者全員に睡眠剤を使用していない。  |     |                                   |
|                               |    | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している        |   |     |                                   |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |    |  |   |     |                                   |
| 25                            | 56 | 食事を楽しむことのできる支援   | 食事については、隣接の老健施設で調理されたものを職員が盛り付け、提供している。入居者の好みや体調に応じたメニュー変更には、その都度柔軟に対応している。食事は、複数のテーブルに、入居者と職員が同席し、同じものを個々に応じた食器を使い食事している。職員は、一人ひとりの言葉に耳を傾け、話を展開しており、終始会話に花が咲き、和やかな雰囲気であった。また準備や片づけについては、その都度、入居者の意思を確認しながら、一緒に行っている。 |     |                                   |
|                               |    | 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている              |   |     |                                   |
| 26                            | 59 | 入浴を楽しむことができる支援   | 一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、ゆっくりと入浴出来るように支援し、強要することはない。よって、回数には人によって異なり、毎日入浴する方もいる。また温泉好きの方には、近隣の温泉に行き、職員と一緒に入浴する等の楽しみも支援している。   |     |                                   |
|                               |    | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している             |   |     |                                   |

| 外部                            | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-------------------------------|----|---|---|-----|---|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |   |   |     |   |
| 27                            | 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  | 職員は、「今しか出来ない」という意識のもと、一人ひとりの希望を出来るだけ実現出来るよう努め、遠方の里帰りや地元の祭りの参加・昔馴染みの知人を訪れる等を支援している。趣味や得意なことを日中の活動に取り入れている。誕生日には、みんなでケーキを作って食べる等の楽しみもある。畑は腰に負担がかからないよう、立位姿勢でも作業可能な底上げされた特性の畑を備えている。 |     |   |
|                               |    | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている        |   |     |   |
| 28                            | 63 | 日常的な外出支援  | 一人ひとりの意向や体調、天候に応じて声かけを行ない、庭や近隣の松林への散歩等、意識的に戸外に出かけられるように努めている。その際は、一人ひとり個別に対応している。   |     |   |
|                               |    | 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   |   |     |   |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |   |   |     |   |
| 29                            | 68 | 鍵をかけないケアの実践   | 職員は、施錠することの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関については、家族からの要望を受け、治安及び入居者の安全を第一に考える観点から、マンション等で見られるオートロック方式を採用している。  |     |   |
|                               |    | 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる            |   |     |   |
| 30                            | 73 | 災害対策  | 敷地内の老健施設と連携体制を取り消防訓練を実施している。訓練は、消防署立ち合いのもと、定期的に共同で実施している。また防災センターから、DVDを借りて、勉強会を実施している。現在、地域の消防団と消防署が、ホームへの見学を予定しており、協力体制づくりを進めている。災害対策は地域住民の協力・参加が求められており、今後に期待したい。              |     | 災害対策については、地域との連携体制が求められており、運営推進会議で訓練への協力・参加を依頼していくことが求められる。まずは、訓練の見学などお願いしてはいいかがだろうか。 |
|                               |    | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている |   |     |   |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援    |    |   |   |     |   |
| 31                            | 79 | 栄養摂取や水分確保の支援  | 献立については、栄養士が作成し、栄養バランスについても考慮されている。摂取量については、主食・副食に分け、毎食後、記録し把握している。また水分量については、尿量とも併せて確認し、足りない方には、水分補給を促している。食事形態については、一人ひとりの状態に合わせた形態で提供している。                                     |     |   |
|                               |    | 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている            |   |     |   |

| 外部                      | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|---|-----|-----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり |    |   |   |     |                                   |
| (1) 居心地のよい環境づくり         |    |   |   |     |                                   |
| 32                      | 83 | 居心地のよい共用空間づくり   | 居間・台所・食堂等の共用空間は、壁の仕切りはなく、格子状の仕切りを用いている為、圧迫感はない。間接照明が、室内を程よい明るさに保ち、暖炉やピアノ・古い民芸調や木の素材を活かした調度品が、全体に落ち着いた雰囲気を与えている。室内には、使い込まれた辞書や地球儀・黒電話等が、さりげなく配され、懐かしく気持ちが和らぐ空間づくりがなされている。所々に季節の飾りが控えめに掛けられ、静かな存在感と安堵感をもたらしている。窓辺は、大きなガラス戸からの採光も良く、コンセプトをもって設計された庭や計画的に植樹された樹木を、四季折々、楽しむことが出来る。 |     |                                   |
|                         |    | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている |   |     |                                   |
| 33                      | 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮  | 壁紙が異なる5種類の居室は、全てに洗面設備があり、中には、流し台やトイレを完備した部屋もある。窓は大きく採光も良い。室内には、本人の使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、家族写真や職員から送られた手作りのバースディカードから、「個の暮らし」を尊重した住まいとして工夫が随所に確認出来た。  |     |                                   |
|                         |    | 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                     |   |     |                                   |